

(様式1)

## 令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立東吾嬬小学校
校長名	渡邊 圭三

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・2.3学年は、全観点で、目標値を上回っている。</li><li>・4.5.6学年の国語の全観点で、目標値を上回っている。</li><li>・国語では全学年で「書く能力」の観点の本校平均正答率が全国平均より上回り、3.5学年で20ポイント以上上回っている。「読む能力」では全学年で5ポイント以上上回っている。</li><li>・算数では全学年で「算数への関心・意欲・態度」の観点の本校平均が全国平均を上回り、特に2.3.6学年では10ポイント以上上回っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・国語では2.5.6学年で「話す・聞く能力」の観点の本校平均正答率が全国平均正答率と比較してほとんど差がない。</li><li>・算数では4.5.6学年で「数量や図形についての知識・理解」の観点の本校平均が全国平均と比較して5ポイント以内にとどまる。</li><li>・理科では4.5.6学年で「観察・実験の技能」の観点の本校平均が全国平均を上回っているのが5ポイント以内にとどまる。</li><li>・D・E層の割合の経年比較(3~6学年)では、国語が19.5ポイント(昨年度比+6.6)、算数が23.0ポイント(同+6.1)と上昇している。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「いつもこつこつ勉強する」の項目では肯定的回答は4年生で52ポイント、5年生で66ポイント、6年生で74ポイントである。学年進行とともに上昇し、意識の高まりが見られる。</li><li>・「1ヶ月に全く本を読まない」児童の割合は、5年生で約24ポイント、6年生で約11ポイントであり、学年進行につれ13ポイントも下がり、読書習慣が付いていることが伺える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>→経年比較では、5年生は昨年度比約14ポイント減少、6年生はほぼ横ばいである。引き続き「家庭学習のすすめ」により学習習慣の定着を図る。</li><li>・「休日に全く勉強しない」児童の割合は、4年生は31.6ポイント、5年生で21.3ポイントと10減少しているが、全国平均より4年生約14ポイント、5年生3ポイント下回っている</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・授業規律がどの学級でもほぼ定着しており、真面目な態度で学習に臨むことができる。</li><li>・話し合い活動では、グループ編成を工夫することで積極的に意見交換することができる。</li><li>・家庭学習の提出はおおむね良く、放課後や夏季休業中の補習へも進んで参加できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・発言、発表する児童としない児童の差が見られ、挙手する児童は限定されることが多い。</li><li>・自分の考えを自分の言葉で説明することが苦手である。また、話し合いを通して、より良い考えにしていこうとする姿勢が消極的である。</li><li>・家庭学習では特定の児童の提出が厳しく、家庭に働きかけながら取り組ませている。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組

- ・校内研究において「自分の考えを表現し、すすんで学び合う児童の育成」を研究テーマとして、国語科の「話す・聞く」活動の指導を通じた思考力の育成を目指す。年3回の研究授業や毎月の研修を通して、毎時間のねらいを明確にし、児童の興味・関心を高め、指導内容や方法を工夫・改善した授業を行う。
- ・校内のOJT体制を確立し、指導・助言を活性化させ、若手と経験のある教員が相互に指導技術を高められるようにする。

### (2) 確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施

- ・「区ふり返しシート」「東京ベーシックドリル」を活用し、基礎基本の定着を図る。
- ・タブレット端末、電子黒板、プロジェクター等のICT機器を効果的に活用し、分かりやすい授業を展開する。
- ・学校支援指導員を算数少人数教室に効果的に配置することで、個に応じた指導を充実させる。
- ・週5回の放課後学習教室を再開させ、学級担任、少人数加配教員、補習教室指導員で児童の情報を共有し、学力の底上げを図る。

### (3) 保護者・地域と連携した取組

- ・週3日の学校図書館司書を積極的に活用し、区団体貸し出しや読み聞かせ等を通して、読書活動の充実を図る。
- ・年2回の「全校漢字テスト」を実施し、目標をもって意欲的に取り組ませ、達成感を味わわせるとともに、基礎的内容の確実な定着を図る。また、発展的な観点から保護者と連携した「漢字検定」を1月に実施し、漢字への興味・関心を高め挑戦する気持ちを育む。
- ・年に2回、感染症予防と連動した「東吾嬭『生活・学習リズムチェック』キャンペーン」を実施し、家庭学習時間や生活習慣（起床・就寝時刻等）を2週間記録させることで、今後の家庭生活のあり方について、各児童に振り返らせる。

## 3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・各学年・各教科の観点で、本校平均正答率が全国平均より5ポイント以上
- ・各学級のD・E層の児童の人数・割合を学級担任作成の学力向上プラン以内